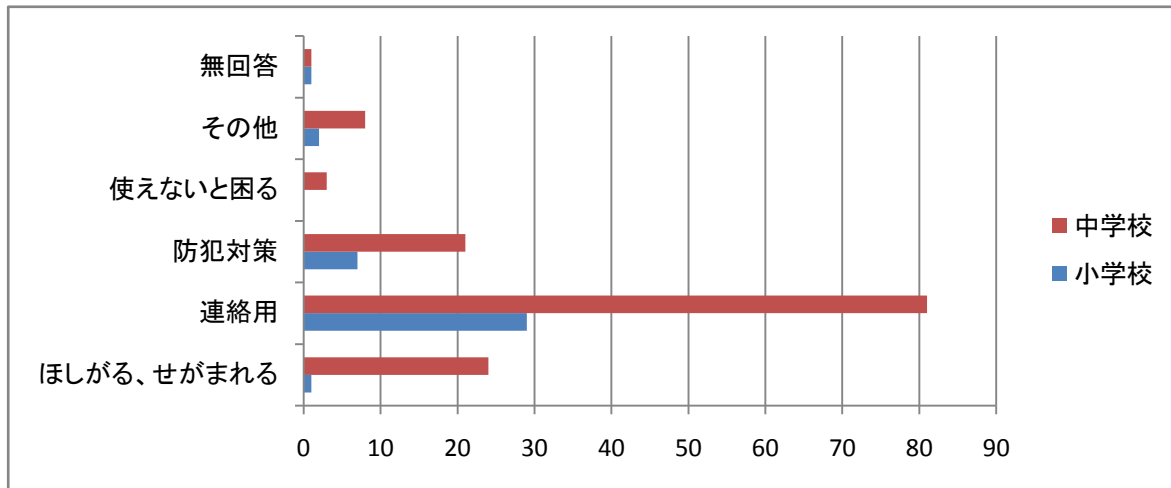


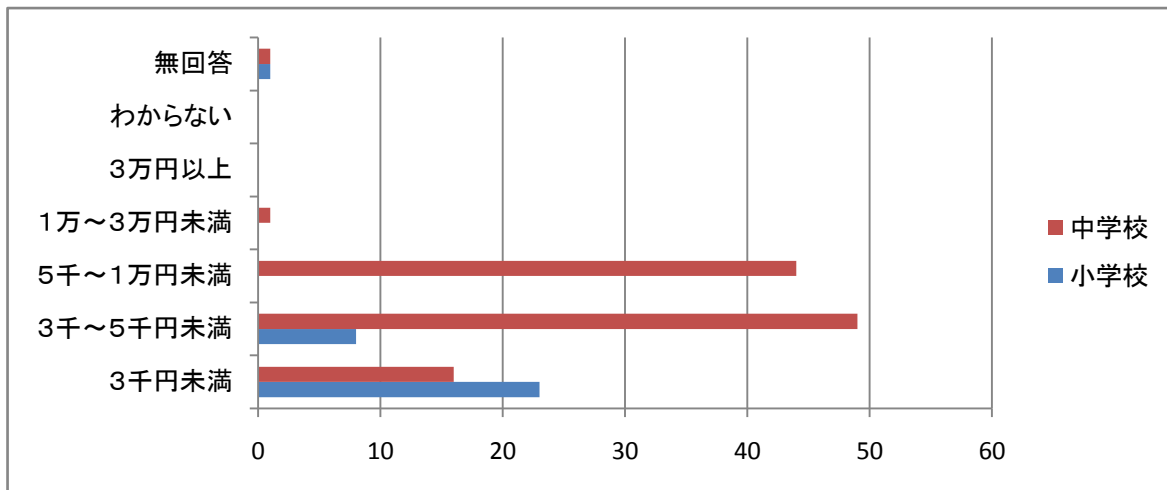
【設問3】携帯電話を持たせている理由は何ですか？



<分析および考察>

主たる理由として答えを1つ求めたが、複数の回答が数多くあったためそのままの数字で集計した。小・中学校とも「連絡用」が一番多く、小学5年生保護者では72.5%、中学2年生保護者では58.7%である。中学生では、「子どもがほしがる、せがまれる」が17.4%、「防犯対策」が15.2%である。中学入学が携帯電話を持つひとつの契機と考えられる。携帯電話のコミュニケーションツールとしての活用が広がり、特に中学生期に子どもからの要求も強まり、保護者が「せがまれ」やむなく持たせるといった現状もあるかも知れない。また、中学生になると交友関係や行動範囲も広がり、そうした中で防犯対策としての活用の意味合いも強まると考えられる。その他の回答では、休日の地域スポーツクラブ連絡用、緊急時の連絡用などがある。こうした機会に安易に携帯電話を持たせるのではなく、きちんと子どもとの間でフィルタリングをすることや約束ごとを決めるなどの確認が大切である。

【設問4】お子さんの1ヶ月の携帯談話使用料は平均いくらですか？



<分析および考察>

小学5年生保護者の回答では、「5千円未満」の使用が96.9%（無回答を除くと100%）である。そのうち、「3千~5千円未満」が25.0%、「3千円未満」が71.9%である。中学2年生保護者では、「1万円未満」の使用が98.2%で、そのうち「5千~1万円未満」が39.6%、「3千~5千円未満」が44.1%、「3千円未満」が14.4%である。小学生では、所持率も低く、保護者の都合で持たせているといったケースも多いと考えられ、使用料の管理なども保護者の責任でされているケースが多いと考えられる。中学生になると、使用目的も広がり、使用頻度も多くなることから使用料が増える傾向があると考えられる。